

會 務 報 告

第1回通常總會並に記念講演會記事

康徳8年10月3日午後4時より新京特別市新發路日滿軍人會館に於て第1回通常總會並に記念講演會を下記次第の通り開催せり。

通常總會次第

- 1 開 會
- 2 日滿兩國旗に對し敬禮
- 3 護國の英靈に對し感謝並に出征將士の武運長久祈願默禱
- 4 會長挨拶
- 5 康徳7年度事業並に決算報告
- 6 特定期間中入會金免除の件
- 7 役員選舉の結果報告
- 8 閉 會

出席者 208 名(委任狀共)

會長佐藤應次郎君議長席に着き開會を宣し下記の通り出席會員の承認を得たり

○會 長 挨 拶

會長佐藤應次郎君下記の如き挨拶をなす。

本會第一回通常總會開會に當りまして一言御挨拶を申上ます

本日は皆様に於きましても公私共に非常に御繁用の處、御來會を得まして有難ふ存じます。

吾滿洲土木學會は既に皆様御承知の通り、有志並に設立委員諸君の御努力と關係各方面の御支援、特に日本土木學會役員の御理解ある御協力を得まして、昨年九月、本日同様此の日滿軍

人會館に於きまして、設立委員總會、創立總會を開催並に發會式を盛大に舉行し、其の後當局の正式設立認可もありまして、3千名に達せむとする同志が一致團結、創立の目的とする處の土木事業の進歩及土木工學技術の振興等、現下の諸情勢に即應して土木報國の誠を盡すべく一方日本土木學會とも密接不可分の提携の下に新しい發足を見た次第であります。

偕て今や大東亞新秩序建設の高度國家の建設は新段階に直面し、飛躍的建設に備ふるに科學、技術の普及振興は益々重大性を加へ其の要請は國を舉げて叫ばれ、國民等しく科學技術の翼賛に積極的參加を必要とする今日であることは皆様充分御承知のことでありまして、私の茲に事新しく申上る迄ありませんが特に吾々大陸に於ける土木事業關係者並に技術者は國防に治安に、又は産業開發等平時に於ても常に其の活動分野は第一線に在るのでありまして殊に臨戰體制下、今日の國家凡有施策の基礎的施設として吾等が擔當する建設なくしては總てが砂上の樓閣たらざるを得ざる次第であります従つて其の使命も亦實に重、且つ大と申すべく會員各位に於かれましても各々其の職場に於て減私奉公の念も一段と痛感され、日夜御奮勵の事と存するのであります、従ひまして今、更めて申上ることもありませんが折角、本日の様な機會に老婆心迄申上たいと思ひますことは即ち土

木技術者並に土木事業関係者は常々不斷の研鑽練磨に據る研究の發表、技術の公開其の他本會を中心とする會員相互の密接なる連繫、融和に依る團結協力の力に據て科學技術翼賛に應へて益々積極的に國家社會に貢獻しなければならぬと信ずるのであります。本會の運営上にも亦一段の工夫研究を致したいと思ふ次第であります。

従つて會員諸君に於かれましても眞に會員自身の會であると言ふ信念に立脚されまして本會の發展に御盡力を願ひたいのであります。

尙繰返して申上げる様であります。會員個々の氣持や信念の如何が此の種の學術團體の盛衰、發展に極めて重要でありまして、全會員に此の信念が徹底した時は本會の隆盛は勿論前に申述べました如き創立の趣意にも副ひ得ることとなり又本會の目的とする所をも半ば達成し得たと申上げては過言ではないかと考ふるのであります。

此の意味に於きまして本會の發展の爲今後一層の御盡力下さらんことを御願致して熄まない次第であります。

以上簡單であります。所懐の一端を申上げ御挨拶と致します。(終り)

○康徳7年度事業並に決算報告

總務部長西川總一君より報告、説明あり承認を得たり。

私から康徳七年度の事業並に決算報告を申します。

本會が創立致しまして滿1ヶ年を経過致したのであります。本總會に於て御報告致しますの

は定款第39條及第40條に依りますと康徳7年度即ち昨年9月28日創立總會以後12月末迄と成りますので従つて日數も少く又創立早々にて學會本來の目的達成の爲に必要とする事業遂行も實際的には康徳8年度つまり本年1月からと云ふた次第でありまして自から御報告する事項も少いのであります。御参考迄に以下本年6月までの状態を簡単に申述べて事業報告と致したい考であります。其點予め御諒承願ます。

9月未事業開始以來12月迄は先、設立趣意書にもありました如く滿洲に於ける土木に關する學術團體の統制を圖り本會をして土木工學の一元的學術機關たらしむる意圖より法人ではありませんでしたが會員組織を以て多年斯界發展のために貢獻、活動を續けつゝ在りました處の滿洲土木研究會を統合致す事と成りまして其の統合に關する事務新年度事業計畫中に於ける土木講習會の開催準備、其他運営資金の獲得等で慌しき内に7年度は終つたのであります。事業としての實績は無く専ら設立直後の一般事務其他の整備に努力致したに過ぎないのであります。

本年最初の事業と致しましては前に申ました土木講習會を1月22日より5月間新京の協和會館に於きまして開催しました。尙講習會5日間の内最終の1日を見學會に致しまして第二松花江豐滿水力發電ダム工事現場の見學を実施しました。此の講習會の出席聽講會員は561名の多數に及び見學會に参加は申込多數を極め。其他の手配のため百餘名と限定した様な譯でありまして會計收支狀況としましても収入に於ては會費、寄附金等で5,756圓支拂に於て會場費聽

講會員の中食費其他合計 5,711 圓差引 585 圓の事業収入と成つて居りまして盛會且有意義裡に講習會を終了致したのであります。

この講習會に就きましては講習科目及内容は開催方法等今後引き続き開催に當つては幾多研究改善を必要とする點も有ると思つて本會の事業として最も適當であり且効果的な事業と思ふ次第であります。

次に編輯部として機關誌を發行する事に致しまして雑誌名を「土木滿洲」として去る 2 月第 1 號を創刊しこれを月刊としまして毎月約 3 千部印刷して全會員に配布又關係方面に寄贈及交換等致して居ります。

このため昨年 12 月編輯委員を會長から委嘱しまして 12、3、5、6 月の都合 4 回編輯委員會を開催し町田編輯部長を中心に専ら内容の充實刷新に努めて居ります。一方滿洲の特殊性を盛りました處の土木に関するポケットブックの編纂刊行を計畫致して居ります。

この他委員會と致しましては「工事請負制度改善研究委員會」を設置致し平山副會長を委員長に二十餘名を委員に委嘱しまして 2 月 6 日委員總會を開催しまして先審議研究項目の決定、幹事の銓衡を致したのであります。其後情勢變化のため何かと集合に支障を來し 3 月 18 日幹事會を 1 回開催又小數幹事會を 2 回程開催したのでありまして未だ内容を報告する迄に至つて居りません。其他理事常議員合同役員會を毎月 1 回程度開催致しまして會の運営其他に關し協議研究致して居ります。この内容は大體會誌に掲載致して居りますので詳細に就ては省略致します。

以上が事業其他に關する概略の報告でありましたが付加へて會員の状態を一寸申上ますと本年 2 月 1 日現在を以て滿洲並に關東州に在住の日本土木學會々員と滿洲土木研究會々員を合せ本會々員と致したのであります。6 月末現在に於ける會員數は次の様な状態であります。

正會員	421 名
准會員	718 〃
學生會員	161 〃
副會員	1,332 〃
特別會員	14 〃
計	2,646 名と成つて居ります。

次に決算報告に就きましては御手元に差上しました印刷物を御覽願ひまして説明を省略ひせて戴きます。

以上で康徳 7 年度の事業並に決算報告と致します。

康徳 7 年度決算報告(自康徳 7 年 9 月 23 日 至康徳 7 年 12 月 31 日)

収入之部	支出之部
1. 一時借入金 2,000.00	1. 發會式費 1,593.52
1. 雜收入 175.00	1. 雜費 443.55
合計 2,175.00	合計 2,037.07
	差引翌年度へ繰越金 137.93

◎特定期間中入會金免除の件

總務部長西川總一君免除に關する理由説明全會一致承認を得たり。

本會の入會金は定款第 16 條及規則の第 15 條に於て正會員 5 圓、准會員 3 圓、學生並副會員 1 圓をそれへ納付する事に規定されて居りますがこれを康徳 8 年 1 月 1 日より、康徳 9 年

12月31日迄の期間に於て新に入會を承認せられたる正會員、准會員、學生會員、副會員に對し滿洲土木學會の規定に拘らず特に入會金の納付を免除し得ることを御承認願ひたいのであります。

其の理由とする處は創立を記念するためと特に創立早々であるため會の基礎である會員を一人でも多く増加するに資したい理由からであります。

〔康徳8年1月1日より康徳9年12月31日迄に新人會を承認せられたる正會員、准會員、學生會員、副會員に對し土木學會規則の規定に拘らず特に入會金の納付を免除することを得〕

○役員選挙の結果報告

書記長佐藤九郎君から下記の如く報告せり

本日の通常總會を以て任期満了と成ります會長1名、副會長1名、常議員7名に對する役員選挙を定款第21條及規則第十九條に據り9月20日選挙を實施致し常議員會に於て開票の結果次の諸君が當選に決定致しました。

尙投票に就いては正會員561名に對する215票の投票でありました。

會長當選	209票	平山復二郎君
次 點	1票	西川 總一君
副會長當選	210票	本間 徳君雄
次 點	2票	西川 總一君
同	1票	鈴木 長明君
常議員當選	209票	浮洲 實君
同	207票	重住 文男君
同	206票	大野 巖君
同	205票	内田 弘四君

同	204票	猪口 理徳君
同	204票	黒田 重治君
同	204票	坂上丈三郎君
次 點	6票	青木 金作君
同	4票	中島 時雄君

(以下略す)

以上を以て第1回通常總會議事を終了し十分間休憩の後記念講演會に移る。

記念講演會順序

1 開會挨拶

副會長 坂田 昌亮君

2 滿洲鐵道網の發達に就て

會 長 佐藤 應次郎君

3 滿洲國々土計畫に就て

正會員 沼田 征矢雄君

4 タコマ橋ノ墜落に就て(墜落記録映畫付)

日本土木學會總務部長 青木 楠男君
工 學 博 士

5 映 畫

イ 海外=ユース 1巻

ロ ドイツ映畫「快走路」2巻

以上講演及映畫を終了し直に同會場別室に於て會員有志晚餐懇親會を開催す出席者42名にして特に遠路本總會に出席され講演せられたる日本土木學會總務部長青木楠男君の感想談を初め會員諸君のテーブルスピーチ等あり9時30分散會せり。

○見 學 會

4日午前9時30分より大陸科學院並に滿洲航空株式會社航空寫眞處を見學せり。参加者25名午後2時30分散會せり 以上

會合其他記事

第7回常議員會

日時、康德8年10月3日

場所、新京日滿軍人會館

協 議 事 項

- 1. 第1回通總會準備狀況報告
- 2. 役員投票の開票
- 3. 學術講演會開催の件
- 4. 新入會員承認の件

第8回常議員會

日時、康德8年11月29日

場所、新京日滿軍人會館

協 議 事 項

- 1. 協和科學技術聯合部會の經過報告
- 2. 部會結成に對する本會の方針
- 3. 上記に對する委員の詮衡
- 4. 土木講習會に關する件

新 入 會 員

會員、松田悅一、梯茂雄、山下唯吉、大井一水

金本光雄、金本順八、横山肖雄、尾崎六郎

土木學會々員數(康德8年11月15日現在)

特別會員 正會員 准會員 學生會員 副會員

41 555 586 163 1,344

計

2690

正會員、坪井基君の訃報に接す本會は恭しく哀悼の意を表す。